

2016年(平成28年)3月21日(月曜日)

セミナーリポート上

レアメタル、レアアース(希土類)などの希少金属資源に関わる産学官の関係者でつくるレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久会長)は、3月3~4日の日程で、オープン合同分科会、講演会・交流会を開催した。2日間で延べ120人が参加し、希少金属や資源全般のリサイクルについて、最新動向や新技術などに関する発表に耳を傾けた。

3月3日に開催した 会理事の河邊憲次氏はオープン合同分科会で「希少金属資源リサイクルは、岐阜県テクノプラクルへのモチベーションを会場に、「レアメタル」が下火になるなか、ル・レアアース問題の 何故こうしたりサイクル現状と経済合理性のあり方について、リサイクル」をテーマとして4人の講演者による講演、意見交換会と見学会を行った。開会に先立ち、同研究

最初に登壇したの は、レアアース・ダイ

レアメタル資源再生技術研究会
希少金属Rの可能性
合同分科会を開催

ジェニストの桑原一夫代 表、「レアメタル・レア

状況」として、基調講演を行った。同氏は近年のレアアース市場動向の転機となった、中法二つの事件——の強化、15年の輸出規制と輸出関税の撤廃を指摘。価格の急騰と暴落の振り幅が大きく、リサイクルも価格の低下がそのままモチベーション減衰へつなげた。一方、レアアースを天然鉱石から抽出する場合、放射性元素が随伴するなど環境負荷が高い点に接触、資源問題ではなく、環境問題として見方を転換することも必要ではないかとした。

続いて、日本原子力ムシー技術開発の社長 収実証装置を見学した。(次号へつづく)

親氏が「レアメタル・レアアースの分離技術による低コストなレアアース都市鉱山開発」の特徵について紹介し、オンサイト処理の可能な移動式リサイクルプラントが紹介された。講演の後、参加者全員で今回のテーマについて意見交換会を設け、活発なやり取りが為された。やはり、昨今の価格低迷がリサイクルの足かせになっている点、特に雑品の中にレアアース磁石が付いたまま海外輸出されている現状に、多くの参加者が疑問を呈した。その後、シーエムシー技術開発のモバイルリサイクル用レアアース回収実証装置を見学した。